

HU-plus

広島大学の知に触れる情報誌
Hiroshima University Magazine Vol.27

May 2025 05



theme

生きる

特集

広島大学が描く、未来のカタチ
#1「生きる」

知の交差点

研究者としての生き様。

未知の扉を開く革新的なアプローチと探究心。

柳沢 正史 氏

筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 機構長

越智 光夫

広島大学 学長

将来を安心して学ぶ、自由に研究できる大学へ

入学式から1カ月余り、新入生の皆さんはもう学生生活に慣れてきたころでしょうか。親元を離れ一人暮らしを始めた方は、不安なことが多いかもしれません。そんなときは、チューターの教員、各学部の学生支援室などに気軽に相談してください。必ず相談に乗ってくれます。

広島大学は原爆投下から4年後の1949年5月31日に開学し、今年で76年を迎えました。文部大臣を経て初代学長に就任した森戸辰男先生は「自由で平和な一つの大学」を掲げ、「中国・四国地方の中心大学」「地域性のある大学」「国際性のある大学」というビジョンを示しました。このビジョンは現代においても色褪せることなく、そのDNAは今も脈々と受け継がれており、あらためて森戸先生の慧眼には感服するばかりです。

さて、近年の大学を取り巻く環境が大きく変化しているのはご承知のことと思います。国は2004年の国立大学法人化以来、大学運営に欠かさない「運営費交付金」を年々削減する一方、公募で選んだ研究に振り向ける「競争的資金」を大幅に増やしました。この資金は、大学間で競争して勝ちとらねばなりません。

「競争的資金」に関して、広島大学は、「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」や「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」、「ワクチン生産体制強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業」、「高度医療人材養成拠点形成事業-タイプA」といった国の大型研究資金を相次いで獲得しました。これらは、森戸辰男初代学長が掲げたビジョンを具現化—すなわち、中国・四国地方の中心大学として相応しい本学の教育・研究拠点整備に使用され、学生の皆さんの学習環境をより充実させる礎となりました。しかしながら、これらの競争的資金は国が求めた事業にしか執行できません。

「運営費交付金」の減少の影響は小さくなく、他の国立大学に先駆けて教員人事を全学で一元管理して、教育研究の戦略的な運営を実現するなど、さまざまな大学改革に取り組んできましたが、この20年間で教職員数は約15%減りました。講義棟や各種研究施設などでも、修繕が行き届かないところが目に付くようになりました。

そんな中、文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会は、国立大学の機能強化策として「学部定員を縮小し、大学院教育を強化する」考えを示しました。少子化が加速しているとは言え、海外からの留学生の受け入れを拡大することなく性急に学部定員を削減すれば、大学院への進学者はいずれ減少し、高等教育全体の裾野を狭めてしまう懸念があります。

こうした問題意識から、私は2025年2月7日の朝日新聞「私の視点」に寄稿し、学生に最適な学びの場を提供し、研究者に基礎から応用に至るまで幅広い分野で自由に研究できる環境を整えて、人類の持続的な発展に貢献するのが大学の使命であること、そしてそれを実現することのできる「国をあげた高等教育の環境整備が急務である」ことを訴えました。

これからも学生の皆さんが安心してさまざまな挑戦に踏み出せるよう、尽力していく所存です。

越智光夫

広島大学の知に触れる情報誌
Hiroshima University Magazine



【Hiroshima University】の魅力や情報をあなたに“プラス(+)”、【HU】とあなたが“つながる(+)”という願いを込めて。

CONTENTS

- 01 散詩語録
- 03 学長対談 知の交差点
筑波大学 国際統合睡眠医学研究機構 広島大学 学長
柳沢 正史 機構長 × 越智 光夫
- 06 旬なトピックを世界に届ける HU TIME
- 07 特集 | 広島大学が描く、未来のカタチ
#1 生きる
- 13 研究者人生を導く 私の座右の銘
- 15 HU PRISM
- 19 卒業生インタビュー 私も広大です
- 21 Focus on! 人から深掘るHU
- 23 HU-Style
- 25 HU TOPICS
- 27 広大生のアクティブライフ!
- 28 読者アンケート・プレゼント
- 29 広島大学への寄附・基金

どこまでも広がる海を進むには、進むべき方向を示す羅針盤が必要です。それは人生も同じ。自分だけの羅針盤を心に持ち、自らの道を歩んでいくことが大切です。



広島大学 SNS

- 広島大学 (Hiroshima University)
- 広島大学 | LinkedIn
- @Hiroshima_Univ
- HiroshimaUniv

Instagramでキャンパスの日常を配信中



A university where students can study with peace of mind and faculty members pursue research freely in the future

More than one month has passed since the 2025 Entrance Ceremony. By now, our new students have likely settled into campus life. For those who moved away from home to start living independently, there may still be some uncertainties. If that is the case, please do not hesitate to seek support from your tutors or the student support office in your department. They will undoubtedly be able to assist you.

Hiroshima University (HU), founded on 31st May 1949, four years after the atomic bombing, is now 76 years old. Mr. Tatsuo Morito, HU's first president and also a former Minister of Education, advocated 'a single unified university, free and pursuing peace' and presented a vision of becoming 'the central university in the Chugoku-Shikoku region', 'a university with regional identity', and 'an internationally-minded university'. These ideals remain undiminished even in the modern era, and are still deeply ingrained in the university's DNA. I am truly impressed by Mr. Morito's foresight.

Well, as you are likely aware, the environment surrounding universities has undergone significant changes in recent years. Since the national universities transitioned to become 'National University Corporations' in 2004, the government has annually reduced 'university operating grants' essential for the administration and operation of universities. At the same time, the government has significantly increased the amount of 'competitive research funding.' This funding is allocated to university research through a process of public applications, whereby universities compete with each other for funding.

Hiroshima University has been successful in a series of major national funding applications, including the 'World Premier International Research Center Initiative (WPI),' the 'Program for Forming Japan's Peak Research Universities (J-PEAKS)', the 'Project to Develop Bio-pharmaceutical Manufacturing Facilities and Other Infrastructure Projects to Strengthen the Vaccine Production System', and the 'Project for the Formation of Advanced Medical Human Resource Development Centers (type A)'. These embody the vision set out by the first president, Tatsuo Morito, laying the foundations for enhancing our educational and research capabilities as well as improving students' learning environment. However, these competitive funds can only be used for projects mandated by the government.

The impact of the decline in operating grants has not been insignificant. Ahead of any other national university, we have undertaken various university reforms that include the centralized management of faculty personnel across the entire university with the aim of achieving strategic management of education and research. However, the number of teaching staff has decreased by about 15% over the past 20 years. Similarly, we have noticed that some lecture buildings and various research facilities are not being repaired properly.

Against this backdrop, the Central Council for Education, an advisory body to the Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology, has announced its intention to 'reduce undergraduate student quotas and enhance postgraduate education', as a measure to strengthen the functionality of national universities. Although the birthrate is declining at an accelerating rate, there are concerns that hasty reductions in undergraduate places without expanding the intake of international students from abroad will eventually result in fewer students entering postgraduate studies, thereby narrowing the scope of higher education as a whole.

Based on my awareness of these issues, I wrote an opinion piece for the 7th February 2025 edition of the Asahi Shimbun, entitled 'My Perspective (Watashi no Shiten).' I believe universities have a duty to support the sustainable development of humanity by offering students an optimal learning environment and by granting researchers the freedom to explore a diverse array of fields, ranging from basic to applied sciences. I called for an 'urgent need for a streamlined national environment for higher education' that would enable this to happen.

I will continue to do my utmost to ensure that all of you have the peace of mind to confidently take on the various challenges that lie ahead.

研究者としての生き様。

未知の扉を開く 革新的なアプローチと探究心。

これからは生物学の時代
父の言葉で研究者の道へ

越智 今回は、筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構の柳沢正史先生にお越しいただきました。幼少期から順を追ってお話を伺います。どのようなことに興味を持つお子さんでしたか。

柳沢 小川の流れや精米機などをじっと見つめて、その場を動かなくなる子どもだったそうです。また、リコーダーが上手だったことから、小学校6年生でフルートを始めました。中学校では音楽部に所属。音楽の教員の影響で、クラシック音楽にものめりこみました。アメリカ人の留学生とバンドを組んでいたこともあり、友人とのやり取りで身に付いた英語はその後の人生で役立ちましたね。

越智 音楽がお好きだったんですね。一度夢中になると止まらない様子を見ると、研究者の素養があったのでしょうか。勉強の方はどうでしたか。

柳沢 数学や物理、化学などが得意な、いわゆる理系でした。大学は筑波大学の医学部に進学。医学部を選んだきっかけは、父の言葉でした。父は上場企業のエンジニアだったのですが、私が幼い頃に退職して医学部に学士入学したのです。エンジニアのバックグラウンドを生かした電気生理学の研究をしており、面白そうな実験をしていたことを子どもながらに覚えています。父から影響を受けて、私も幼い頃から研究者になりたいと言っていたそうです。1970年代に分子生物学の研究が盛んになり始め、「これからは生物学が面白い時代になる」と父から助言を受け、医学部受験を決めました。

越智 お父さまは先見の明があるようですね。研究者という幼い頃からの夢をかなえられた柳沢先生も素晴らしいと思います。

広島大学 学長

越智 光夫

Ochi Mitsuo



筑波大学
国際統合睡眠医科学研究機構
機構長

柳沢 正史氏

Yanagisawa Masashi



幸運に導かれて 新物質「エンドセリン」を発見

柳沢 医学部在学中は勉学に励み、成績は常にトップクラスでした。6年生になった時、やはり臨床と研究の両立は難しいと感じ、研究者の道に進むことを決意。日本全国の研究室を見学しましたが、最終的に筑波大学医学博士課程に進み、薬理学の研究室に所属しました。そこで筋肉の生化学を研究していた眞崎知生先生に師事したおかげで、学位を取得できるレベルの成果を2年で出すことができました。継続して筋肉の収縮たんぱく質について研究するか悩みましたが、もう少し病気に直接関連した研究をしようと、新しい領域に挑戦しました。

越智 その研究の成果が、内皮由来血管収縮因子「エンドセリン」の発見なのですね。

柳沢 そのとおりです。幸運なことに研究室の豊富なリソースのおかげでとんとん拍子に研究が進み、約1

筑波大学
国際統合睡眠医科学研究機構 機構長
柳沢 正史 やなぎさわ まさし

東京都練馬区出身。筑波大学医学専門学群・大学院医学研究科博士課程修了。1991年に渡米し、24年間アメリカで研究室を主宰した。2012年、文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IIIS)を設立。

広島大学 学長
越智 光夫 おちみつお

愛媛県今治市出身。広島大学医学部卒業後、整形外科に入局。1995年島根医科大学教授。2002年広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授に就任。広島大学病院長を経て2015年から現職。2015年に紫綬褒章を受章。

年でネイチャー誌に「エンドセリン」の発見を報告することができました。この時ほどスムーズに研究が進んだことはないですね。

越智 その後1991年にアメリカに渡り、テキサス大学でサウスウェスタンメディカルセンター准教授およびハワード・ヒューズ医学研究所准研究員に就任されました。

柳沢 0から自分のラボを組み立てることになり、試行錯誤の日々でした。渡米して数年間は成果が出せませんでしたが、1994年にCell誌に4報の論文が出て、安心しましたね。

越智 うまくいかない期間は、ストレスがありましたか。

柳沢 もちろんストレスを感じましたが、研究は時間がかかるものなので、いつか成果が現れると信じて、諦めずに向き合ってきました。

越智 海外と日本、両方の大学に所属されましたが、環境に違いはありましたか。

柳沢 アメリカでは、自分の研究と研究室の運営に没頭することができました。一方、日本では会議や雑用で時間を取られてしまい、なかなか研究に集中できません。日本では、研究者が研究に時間を割ける体制を整える必要があるように思います。

ふとしたひらめきが 研究成果につながる

越智 柳沢先生は、神経伝達物質「オレキシン」発見者の一人でもあります。オレキシンが睡眠・覚醒を制御すると発見するまでには、どのような道のりがありましたか。

柳沢 エンドセリンの創薬研究と並行して、別の研究も進めるようになりました。その中で1998年に発見した神経伝達物質「オレキシン」、当初は、摂食を促す神経伝達物質と考えていました。しかし、オレキシン遺伝子を欠損させたマウスに、食欲減退効果が見られなかったのです。原因が分からず研究に行き詰まっていたのですが、マウスは夜行性の動物であることから、夜間の行動を赤外線カメラで観察するアイデアを思いつきました。実際に観察してみると、マウスの行動が突然30秒ほど止まる瞬間があ

不断の努力の末、チャンスに向き合う準備が整った時に幸運が訪れるのです。

柳沢



ることを発見。この症状がナルコレプシーという睡眠障害と同一であることから、オレキシンが睡眠・覚醒を制御していることが分かりました。当時はまだ、睡眠を遺伝子で語れる時代ではなく、これがブレイクスルーとなりました。

越智 歴史的発見にはひらめきが不可欠ですね。柔軟な発想を生み出すコツはありますか。

柳沢 研究スタイルにヒントがあるかもしれません。私は仮説を立てずに広範囲にアプローチを行う探索研究という手法を用いています。こうすれば研究が面白くなるだろうという感覚を大切にしたいうえで、共同研究者が持ち込んだ他分野のアイデアを組み合わせるなど、型にはまらない研究スタイルが斬新な発想につながっていると思います。ただし、袋小路に入りそうな場合はすっぱりと諦めて引き返す勇気も必要ですよ。

越智 その嗅覚が優れていらっしゃるからこそできる研究手法だと思います。柳沢先生は国際統合睡眠医学科学研究機構(WPI-IIIIS)を創設され、2023年にはノーベル賞の登竜門と呼ばれるブレイクスルー賞、クラリベート賞を受賞されています。今後のご活躍に期待しています。最後に学生にメッセージをお願いします。

柳沢 自分が心から面白いと思えることに取り組んでください。最先端の手法を取り入れるのも大切ですが、流行りにとらわれてはいけません。結局回り道になってしまう可能性もあるため、興味のある事柄を突き詰めるのが一番の近道であると思います。また、人生で一度は海外留学を勧めます。ヨーロッパやアジアなど地域は問わないので、一度海外で暮らしてみると、新しい発見があると思います。

越智 私も同感です。広島大学はSTARTプログラムをはじめ多彩な制度を用意して、短期留学・長期留学を支援しています。経済的なサポートもあるので、学生にはどんどん海外に挑戦してもらいたいですね。本日はありがとうございました。

H U TIME

旬なトピックを世界に届ける

被爆80年記念事業 平和チャリティコンサートを 開催します

2025年、被爆から80年の節目を迎えるにあたり、平和への願いを音楽に託し、過去を振り返るとともに未来への希望をつなげることを目的として、平和チャリティコンサートを開催いたします。本公演には、世界的オペラ歌手・中丸三千繪氏を迎え、本学の教員・学生・卒業生も合唱や演奏で参加し、音楽の持つ力とともに平和の大切さを伝えます。本コンサートの収益は、広島市が8月6日に開催する「広島平和記念式典」に、世界の次世代リーダーを招へいするために活用されます。音楽を通じて平和を考える特別なひとときを、ぜひ一緒にお過ごしください。



開催概要

日程	2025年8月5日(火) 13:00開場/14:00開演 (16:00終演予定)	会場	サタケメモリアルホール (広島大学東広島キャンパス内) (広島県東広島市鏡山一丁目2-2)
料金	前売り 一般3,000円、学生1,500円 当日券 一般3,500円、学生2,000円 ※一部の招待席を除き全席自由 ※未就学児の入場はご遠慮ください	チケット販売	2025年5月17日(土)より 「チケットぴあ」(Pコード 297582) 「広島大学生協(各キャンパス)」 「広島大学病院内」にて販売開始予定
主催	広島大学	お問い合わせ先	広島大学 平和チャリティコンサート実行委員会 事務局 TEL 082-424-6533 ※平日9時~17時(12時から13時除く) E-mail kyoiku@hiroshima-u.ac.jp
告知協力	広島テレビ		

チケット販売についてはこちら



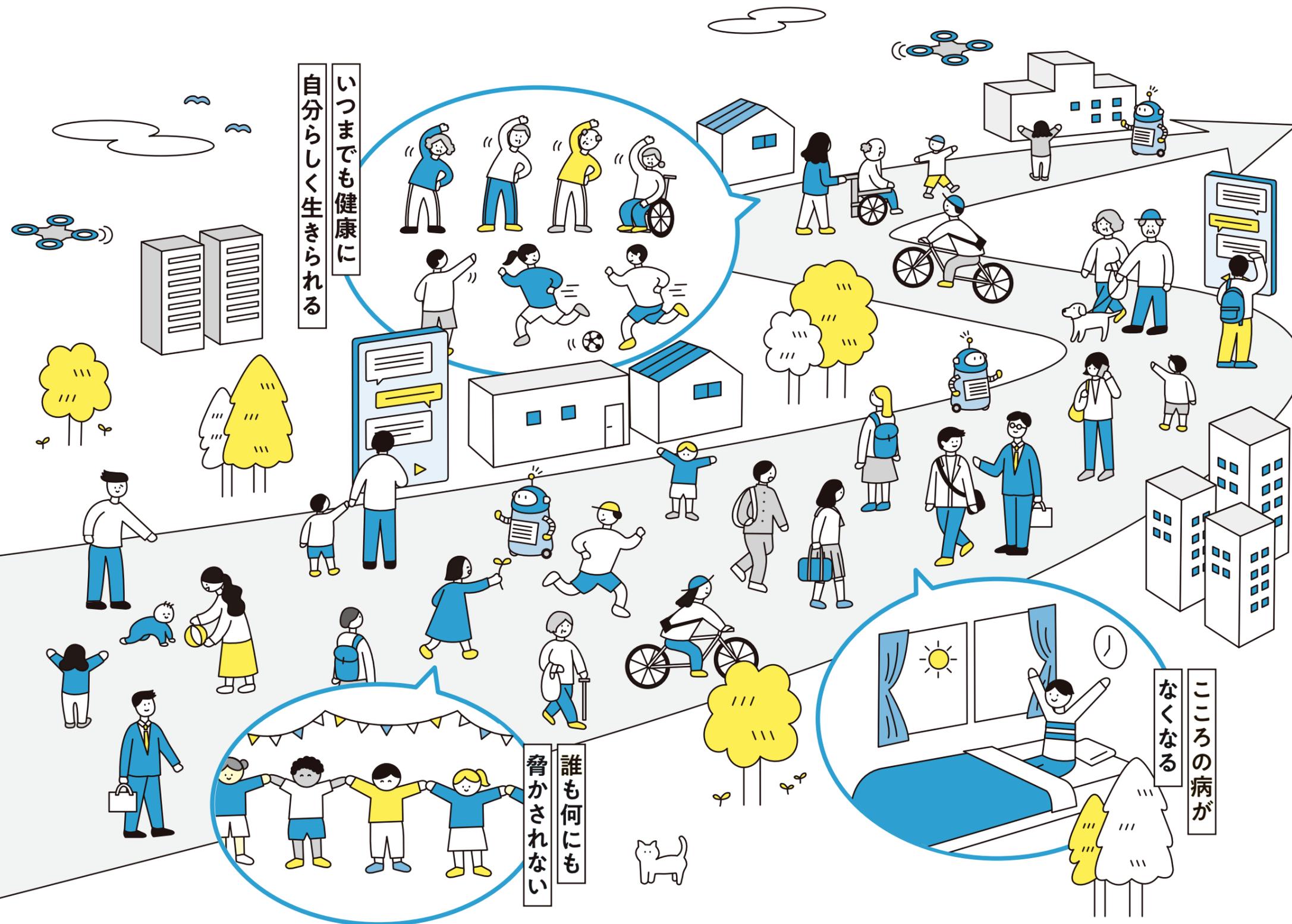
プログラム

第1部 14:00~15:00	曲目 1 S.バーバー《アニュス・デイ》 2 E.エルガー《ニムロット》 3 O.メシアン《世の終わりのための四重奏曲》より1・4・7 4 W.A.モーツァルト《アヴェ・ヴェルム・コルプス》	出演 室内楽・合唱/広島大学大学院 人間社会科学部研究科音楽文化教育学領域・ 広島大学教育学部第四類音楽教育学プログラム (音楽文化系コース)教員・学生・卒業生有志 指揮・指導 徳永 崇(広島大学教授) 指導 高旗 健次(広島大学教授) 大野内 愛(広島大学教授) 藤井 雄介(広島大学准教授)
第2部 15:00~16:00	曲目 1 G. F. ヘンデル(オン・ブラ・マイフ)オペラ《セルセ》より 2 G. ブッチーニ《歌に生き愛に生き》オペラ《トスカ》より 3 G. ガーシュイン(サマータイム)オペラ《ボーギーとベス》より 4 G. ヴェルディ《さらば過ぎ去りし日々よ》オペラ《椿姫》より	出演 ・ソプラノ/中丸 三千繪 氏 ・ピアノ/安達 朋博 氏 ほか

HU MIRAI DESIGN

広島大学が描く、未来のカタチ

#1「生きる」



良い生き方って何だろう？

誰もが健康に長生きできる社会のために医療技術は日々進歩し、さまざまな治療が実現されてきました。

科学の力はこれから、ますます私たちの生活を変えていくでしょう。やがて「健康で長生き」は当たり前。一人一人が「良い生き方」を追求する時代が訪れるのです。

何歳になっても愛犬と元気に散歩できる。ありのままの自分で、世界中の人と友達になる。そんな未来は決して夢物語ではありません。

笑顔があふれる、誰もが幸せに暮らせる世界へ。広島大学が描く、ワクワクする未来を一緒にのぞいてみませんか？

特集

広島大学が描く、未来のカタチ

こころを見つめ 全ての人を 思いやる社会へ

こころの在り方を改めて考えることが
良く生きる第一歩です。
みんなが健やかに気持ち良く
暮らせる未来につながる、
広島大学の研究をご紹介します。



++++
“予防”の意識を持ち
他者を尊重して行動することで
争いのない世界を

山根 達郎 准教授 大学院人間社会科学研究科 専門:国際関係論

アフリカでは武力紛争が続く地域が少なくありません。終わりのないテロリズムや居座り続けるクーデター政権などにより、紛争解決はさらに困難になりつつあります。私は、こうした状況の中で平和を実現するために、国連やアフリカ連合がどのように介入しているのかを研究しています。世界の動向を論文として記録することはもちろん、講演を通じて幅広い人々に平和や未来に

ついて考える機会を提供しています。もし世界中の人々が「良い生き方」を追求すれば、平和を実現できるかもしれません。しかし、そのプロセスは一つではなく、時には自らの価値観を他者に押し付けることにもなります。例えば、「平和には民主主義が重要だ」という主張は、他の政治体制国家にとっては押し付けと捉えられる可能性があります。これは国家間に限らず、個人間で

も起こり得ることです。そこで、皆さんに実践して欲しいのは、「暴力を予防する」という考え方を持つこと。一度争いが起これば、解決には大きなコストがかかります。自身の追求する「良い生き方」が他者には押し付けられているかもしれない、もしかすると自分達が間違っているかもしれないという視点を忘れず、かつ互いの人権を尊重して行動してほしいと思います。



++++
脳活動の可視化とAI診断により
こころの不調を早期発見・治療。
誰もがいきいきと暮らせる未来を
++++

岡田 剛 教授 大学院医系科学研究科 専門:精神神経医学

日本で深刻な社会問題となっているうつ病。そのメカニズムは未解明で、診断は問診による症状の評価に頼っています。また、うつ病にはさまざまなタイプがあり、有効な治療法が異なるにもかかわらず、現行の問診では個々の病態を特定できないという課題があります。そこで私たちは、脳活動を可視化できる機能的MRI (fMRI) を用いて、うつ病の診断を支援するAIを開発しました。膨大な脳活動データを分析し、

うつ病の場合に異常が起きる脳回路を特定。そのデータと患者の脳の状態を照らし、AIがうつ病の特徴を判別します。このAIを実用化して客観的な検査法を確立できれば、病態に応じた最適な治療法を選択し、早期の回復が可能になるかもしれません。

精神疾患は誰にでも起こりうる病ですが、本人も周囲もそれを病気の症状だと認識しづらい現状があります。しかし、脳の動きを可視化することで不調を客観的に理解しやすくなります。これにより、身体と同じようにこころの健康にも意識を向け、不調を感じた時に気軽に精神科に相談できる社会の実現を願っています。そうすれば、一人一人がこころの健康レベルを高め、いきいきと自分らしく生きることができるよう。



MRIで脳活動データを取得

“最後まで自分らしく”

運動やスポーツを通じて
健康面における多様な社会課題の解決へ

長寿化に伴い、健康寿命の延伸が重要とされる今、健康の維持・向上には運動が欠かせません。しかし現代社会では、長時間のデスクワークやスマートフォン利用の増加により、国民全体の運動不足が大きな課題となっています。高齢者は体力低下や疾患といった問題を抱える人も多く、体力の向上や治療に必要な運動を続けられないことも。また、妊娠・出産など女性特有のライフイベントによっても運動不足が生じており、地域や経済状況などによって運動できる機会に格差もあります。

私の研究対象は主にパラスポーツや外反母趾、ウイメンズ・メンズヘルス、高齢者に向けた体操の開発など。老若男女健障、さまざまなライフステージに合わせた健康の維持・向上に取り組んでいます。運動不足の解消は、その中でも特に重要なテーマです。

学校や職場で運動機会を積極的に設けたり、運動の必要性や効果をSNSで発信したり、個人でもできることはたくさんあります。誰もが健康で豊かな人生を送れる社会を、共に目指していきませんか。

前田 慶明 准教授
大学院医系科学研究科
専門：スポーツ外傷・障害予防・パラスポーツ



江田島市と共同開発した介護予防体操「えたじまん体操」

自分の「良い生き方」を考えるヒントとなる、広島大学の研究を幅広く紹介。人生をより良く、幸せなものにするキーワードを探してみてください。

あなたは どう生きる？ 人生100年時代の キーワード



“相互に理解して”

より多くの国の人々と
分かり合える未来を目指して

宗教はさまざまな時代や地域において人々に理想の生き方を示し、信仰を通じて道徳の共同体や信頼関係を構築してきました。また、社会制度や人生の出来事に意味を与えたり、集団のアイデン



▲12世紀頃のインド・ネパール密教の写本の一例

▼インド・エローラ第12番石窟寺院跡の大日如来(金剛界)

ティティを形成したり、神や聖人などの概念を通じて日常を超えた体験や思索を広げる役割も果たしてきました。

私の専門分野は古代・中世の南アジア地域の密教と仏教倫理思想史ならびに比較宗教学。仏教の古典を題材に、写本のテキスト校正や善と悪を分かつ基準や、古典倫理思想と現在の思想との共通点・相違点などについて研究しています。

宗教という「宗教戦争」や「宗教的テロリズム」などマイナスのイメージもありますが、それらは信仰の違いのみが原因ではなく、政治や経済など多様な要因が絡んでいます。一人一人が世界の宗教を知り理解を深めていくことで、多くの人々とお互いが尊重できる未来が実現できるはず。それが「良い生き方」の一つの形ではないでしょうか。私も研究者として、人々が宗教についてさらに広く深く理解できるよう努めていきたいです。

杉木 恒彦 教授
大学院人間社会科学研究所
専門：密教・仏教倫理思想史・比較宗教学



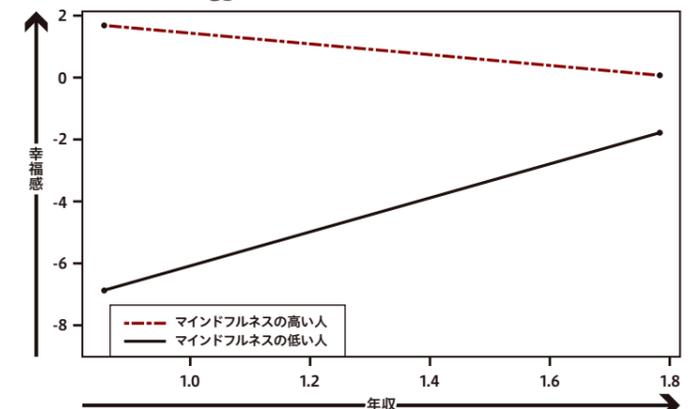
“今を大切に”

瞬間に集中するマインドフルネスで、生きることの尊さに向き合う

マインドフルネスとは、目の前にある一瞬一瞬の体験に穏やかに意識を向けた状態のこと。例えば食事をする時、テレビやスマートフォンを見ながらではなく、食材の歯ごたえや香りを感じながらじっくり味わって食べることがこれにあたります。マインドフルネスを心がけると、日常で幸福を感じやすくなったり、不快な出来事に気持ちを乱されにくくなったりする効果が期待できます。

なぜそのような効果が生じるのか。それは、「今」に集中することで、「今」を生きることこそが尊いのだという視点を持つからです。そうして自分自身を採点したり他者と比べたりする物差しを手放せば、より良く生きることにつながっていくでしょう。近年、生産性の向上を目的にマインドフルネスを導入する企業が増えましたが、

本来の目的は競争や効率主義から自由になり、「今」の充実感を高めることにあるのです。こうした本来の意義を現代のマインドフルネスに取り戻せるよう、私はこれからも研究活動に励みます。



マインドフルネスの高い人(赤い点線)は収入と関係なく幸福感が強いことが分かります

杉浦 義典 准教授
大学院人間社会科学研究所
専門：異常心理学・犯罪心理学・幸福研究



再生医療で難治性疾患の患者を救う
細胞治療を放射線障害にも生かす



わたし ぎゆう めい
研究者人生を導く 私の座右の銘

最先端の研究に挑み続ける研究者たち。困難に直面した時や決断を迫られた時、そして成功の瞬間に彼らを導いてきた言葉とは何か。日本科学技術ジャーナリスト会議に所属するライターが、「座右の銘」から研究者の人となりを紐解きます。

座右の銘

継続は力なり

治療法がなかったバージャー病
細胞移植で手足の切断を回避

手足の血管が詰まって強い痛みを生じる「バージャー病」という病気がある。血液の循環が阻害され壊疽が起きるような重い症状の患者に対しては有効な治療法がなく、患部を切断する以外に道がないこともしばしばだった。そのような難治性疾患に対して、広島大学病院では、患者自身の骨髄細胞を患部に注射し血管再生を促す「細胞治療」を確立。これまでに約40人の患者を治療してきた。

広島大学病院未来医療センター長を務める東幸仁教授は「術後数日という早期に疼痛が軽減、消失します。足を切断する以外に選択肢がないと診断された患者に細胞治療を適用したところ、その95%で治療が奏功し、手足の切断を回避できています」と話す。

治療は患者から骨髄液を採取することから始まる。骨髄液から「骨髄単核球細胞」と呼ばれる細胞を取り出し培養装置で増やした後、ふくらはぎなど患部周囲に注射する。移植された細胞は分解されるが、その際に細胞が放出する



広島大学原爆放射線医科学研究所所長・
広島大学病院未来医療センター長

東 幸仁

ひがし・ゆきひと／1988年広島大学医学部医学科卒業。同大医学部附属病院などで内科医として勤務。医学博士号取得後、2001年米国アイオワ大学留学。2002年広島大学大学院歯薬学総合研究科助手。同研究科講師、准教授を経て、2011年広島大学原爆放射線医科学研究所教授。2013年から広島大学病院未来医療センター長を併任。2023年から広島大学原爆放射線医科学研究所所長。

物質が血管再生を促す。「投薬や禁煙など術後の維持療法を続けられれば、再発することは少ない」と東教授は強調する。

超音波で血管や筋肉を再生
けがの治療を受ける
プロ野球選手も

東教授は超音波で血管や筋肉を再生するユニークな医療機器の開発にも取り組む。周波数1.5MHzの超音波を患部に当て、バージャー病を治療する試みだ。骨折や肉離れなどの回復を早める効果もあり、プロ野球選手にも利用者がいるという。また、家庭でも使える小型の超音波発生装置を、医療・スポーツ関連事業を展開する日本シグマックス社（東京）と連携して開発した。高齢者でもボタン一つで簡単に使えるよう工夫した装置だ。全国の16の病院などとともに臨床治験に取り組んでいる。「超音波がどのように血管を再生するのか、メカニズムも分かった」と東教授は話す。

さらに、東教授は原爆放射線医科学研究所所長として、放射線障害を細胞治療によって軽減する研究にも挑んでいる。

再生医療が
文科省支援事業の柱に
「少しずつコツコツ」が結実

広島大学は特色ある地域中核大学を支援する文部科学省の事業「J-PEAKS」に選定されている。研究成果を地球規模の課題解決や地域産業の発展につなげるのが狙いで、再生医療・細胞治療は柱の一つだ。

東教授が血管再生の研究を始めたころ、同様の研究に取り組む人は周囲におらず、研究もなかなか進展しなかった。「試行錯誤を繰り返すうちデータが少しずつ集まり、一緒に研究してくれる人も少しずつ増えた」と言う。「継続は力なりと中学校の先生が言われたのを今も思い出します。この言葉を胸に刻みこれからは小さなことからコツコツと研究に励みたい」と東教授は笑顔をみせる。



東先生の研究の息抜きは？

ほっと一息 Break time

若い頃にたしなんでいたゴルフを4年ほど前から再開した。循環器内科医としての仕事が猛烈に忙しくなるにつれ、休日に体を動かすことはなくなっていたが、近年は少し余裕ができた。月に2回ほど休日に長男と2人でゴルフを楽しんでいる。時間があれば練習場にも行く。ボールを打っていると日常の悩みを忘れてリフレッシュできる。



HU PRISM

広島大学は、さまざまな形で社会とつながっています。
プリズムが光を分散させるように、
多角的な視点からその取り組みを映し出します。



「第3回平和学長会議」「広島大学がつなぐ世界の大学紹介」を開催。
世界11カ国12大学が集結 未来を担う若者へ広島大学がつなぐ世界と平和の輪



GLOBAL

広島大学と世界の関わりを
ご紹介します。

広島大学は、「平和を希求する精神」の理念の下、持続可能な世界平和に向けた大学の役割を議論する「平和学長会議」を主催しており、2024年8月6日、11月25日（アフリカ・チャプター）の2回にわたり、世界の主要大学との間で対話を重ねてきました。

2025年3月21日、第3回となる「平和学長会議」を開催し、「大学の世界展開力強化事業（文部科学省補助事業）」で連携する11カ国12大学（本学を含む）から、学長・副学長ら約40人が参加しました。また、文部科学省の渡辺国際統括官（当時）にも参加いただきました。

会議では、各大学の学長らが将来の連携拡大や人材育成について意見を交換しました。最後には、「平和学長宣言」が各大学長らの署名の後、越智学長によって読み

上げられ、大きな拍手に包まれ閉会しました。

また、同日午後には広島市内のホテルにて、公開イベント「広島大学がつなぐ世界の大学紹介」を開催し、高校生やその保護者ら113人が参加しました。イベントでは、平和学長会議の出席者による各大学のプレゼンテーションや、広島大学の留学経験者の体験報告などが行われ、参加者に異なる価値観や文化を学ぶ大切さや楽しさを知っていただく機会となりました。

広島大学は、今後も、世界中の大学との間で学生や研究者同士の交流を積極化し、持続可能な世界平和に向けた大学間ネットワークの構築・拡大に取り組んでいきます。

広島大学「大学の世界展開力強化事業」
ウェブサイト
(<https://iuep.hiroshima-u.ac.jp/>)



広島大学が制作したモノを
ご紹介します。

学長の対談集と漫画本、 2冊の書籍を発刊

本学は、創立75+75周年を記念して、昨年2冊の書籍を
発刊しました。

『22世紀の教養論 VUCAの時代を生きる君たちへ』は、越智光夫学長と有識者との対談集です。現代は「VUCAの時代」と言われ、先行きが不透明で将来の予測が困難な状況が続いています。混沌とした社会の中で羅針盤として正しい方位を示すのが「教養」だと越智学長は考えます。本学では2017年度より「世界に羽ばたく、教養の力」という特別講義を新入生向け教養教育の一環として取り入れました。文学や外交、ジャーナリズムなど各界で活躍するトップリーダーたちがどのような学生時代を送り、さまざまな困難を乗り越えて現在に至ったのかを紹介し、学生のやる気を引き出すことを目的としています。その際にお招きした方ははじめ、各界の著名人と学長との対談を書籍として収録。夏井いつき氏、池上彰氏、ティムラズ・レジャバ氏、茂木健一郎氏など8人のゲストと学長が、若者たちの未来に向け

て語りあった内容を収めました。対談を通してさまざまな分野に触れることで、人生100年時代における羅針盤としての教養の力について考える一助になるでしょう。

漫画本『ヒロ子さんと巡る広島大学』では、越智学長が女子高校生のヒロ子さんを案内しながら、広島大学の歴史や最先端の研究について紹介するストーリーが展開されます。作画は、島耕作シリーズで知られる人気漫画家、弘兼憲史氏（広島大学特別招聘教授）が担当。中高生にも親しみやすい読み物に仕上がりました。弘兼氏は2018年の特別講義に講師としてお迎えして以来、漫画の取材で多くの国・地域を訪れた経験をもとに、少子高齢化が急速に進む日本の課題について問題提起をいただいています。なお、本書は英語、中国語版でも発行され、今後ベトナム語、インドネシア語版も発行予定です。弘兼氏のペンを通して、大学の歴史を知ると共に、100年後にも光り輝く大学を目指している本学の未来を感じてください。



作画：弘兼憲史・ヒロカネプロダクション
出版社：広島大学出版会
定価：税込 1,000 円
本学の各キャンパスの生協売店や
広島県の主要な書店、Amazon で販売中。



編著：越智光夫（広島大学長）
出版社：中央公論新社
定価：税込 1,980 円
本学の各キャンパスの生協売店や
全国の主要書店、Amazon で販売中。



学内外で行われたイベントをご紹介します。

本学と大学間協定を結ぶアリゾナ州立大学では、自治体や地域企業と連携した実践的教育が進展しています。それを手本とした課題探究型経験学習モデルの構築を目指し、学生が地域企業の課題解決に挑む「イノベーションチャレンジ」が昨年より本学で始まっています。

2024年7月に行われた第1回目のイベントには、総合科学部国際共創学科の学生18人が参加。東広島市の地元企業である中国精螺株式会社の協力のもと、「金属スクラップの有効活用策」を議論・提案し、コンクリートの骨材として利用する提案が優秀賞に選ばれました。参加者の田中美月さん(総合科学部国際共創学科4年)は「企業が抱える課題に対して直接アイデアを提案するなど、社会とつながることができ、良い経験になりました」と振り返ります。

2025年3月に行われた第2回目のイベントでは、自動



留学生を含む多様な文化的背景を持つ学生たちが積極的に協働



車の総合試作を手掛ける株式会社オーエイプロトが社会とつながりを深めるアイデアについて、学生12人が議論を深めました。優秀賞には「次世代の金属加工人材をつくるデザインチャレンジ&ワークショップ」が選ばれ、オーエイプロトの担当者は「当社が思いつかなかった視点から、実現可能性も高いアイデアを短期間で出してくれて感激している」と高く評価。また、第3回目のイベントでは農事組合法人ファーム西田口と連携し、「アスパラガスの廃棄部分活用法」について検討します。本イベントは企業と学生の双方に新たな視点をもたらし、ブレイクスルーのきっかけを生み出す取り組みです。今後も課題探究型経験学習の機会をさらに拡充していきます。



第1回の表彰式



Town & Gown Officeの活動をもっと知る



広島大学発のスタートアップ企業取材。創業理念や事業展開について伺いました。



IT の力でつながりを紡ぎ 小さな挑戦から社会課題解決を目指す

株式会社WEAVE 代表取締役CEO
久保 直樹 さん

私は、広島大学教育学部在学中の2022年に株式会社WEAVEを起業しました。起業後最初に挑戦した事業が「食品ロス削減アプリ『まかない』」の開発です。広島大学生協と連携して、食堂で余った料理を学生に販売するプラットフォームを構築し、食品ロスを80%以上削減するなど社会課題の解決に貢献できました。この時プログラミングの知識がなくてもアプリを開発できるノーコードツールの可能性を実感し、ITに関連したコンサルティングサービスで企業や社会のDXに貢献していこうと決意しました。

現在、弊社ではITスキルを持つ企業社員や学生と、DXの遅れが課題である地方企業をつなぐプラットフォーム「ミーネクスト」を運営しています。1回25分のセッションを通じて企業の実務における課題解決を図りながら、信頼関係を築くことで、アウトソーシングや採用、人材確保を支援し、地方企業のDX推進を後押ししています。

私が仕事で大切にしているのは「つながりを紡ぎ、きっかけをつくること」です。食堂と学生、IT企業社員と地方企業など、これまで需要と供給をマッチングさせ社会課

題の解決に取り組んできました。世の中にはスキルを持っていても生かし切れず躊躇している人がいる一方で、スキル不足で困っている人もいます。人と人をつなげ、互いの力を生かして社会をより良く変えていきたいと思えます。起業を目指す広島大学の学生には、「まず小さいことから始めてみよう」と伝えたいです。私も初めは小さなアプリ開発からスタートしました。その一歩が、やがて大きな未来につながるはずで

株式会社WEAVEへのお問い合わせはこちら



これが私の人生の転機

大学1年生の春休みにフィリピンの孤児院でインターンシップを経験しました。貧困問題の深刻さに触れると同時に、「世界を変えるためには、お金とインフラ規模の投資が必要だ」と強く実感。この経験をきっかけに起業家の道を選び、営利企業の事業を通じて社会に貢献することを決意しました。



WE ARE FROM HIRODAI

私も広大です

広島大学を卒業・修了後、各業界で活躍されている卒業生の方々に、現在のお仕事と大学時代を語っていただきました。



地球環境に貢献するために
建築のあるべき姿を探求し続けます

工学部第四類出身

末光 陽子さん

建築家ユニットSUEP.
共同主宰

すえみつ・ようこ／福岡県出身。1997年に工学部第四類を卒業後、株式会社佐藤総合計画に入社し、主に公共建築の意匠設計に携わる。2003年に独立。2007年よりパートナーである末光弘和氏と共同主宰。

【心に響いた人生の名言】

「未来の建築は歴史を知れば分かる」——元広島大学教授の杉本俊多氏の言葉です。設計で迷った時にこの言葉を思い出し、今の自分の取り組みが歴史の中でどのように位置付けられるかと自問自答を重ねながら歩んできました。



自然と共生しながら 地域に息づく空間づくりを

建築家ユニットSUEPとして、住宅から公共施設まで幅広いプロジェクトに携わっています。設計するうえで大切にしているのは、「自然との共生」。広島大学の授業で建築が周辺に与える影響について学び、「デザインの中で環境にアプローチできないか」と考えるようになりました。これまで手掛けた環境建築デザインの中で、特に印象に残っているのが「TENOHADA官山」です。岡山県西粟倉村の間伐材を利用するとともに、将来移転可能な建築デザインを実現。林業の知識を深め、持続可能な循環につい

て考える機会になりました。

最近では3月にオープンした広島県庁前の商業施設と芝生広場を設計しました。本庁舎と新エリア、県庁の森が一体となるように、広場や小径を自然に溶け込ませています。人々の憩いの場所として、そして基町地区の賑わいを生む空間として機能することを願っています。

学内外で情報を集め 建築に没頭した学生時代

広島大学での学生生活は、建築一色でした。2年生後期からはほとんどの時間を製図室で過ごし、先輩の卒業設計を手伝う中で設計への興味を深めていきました。さらに、アトリエのオープンデスクや

建築家の講演会に足を運ぶなど、学外にも積極的に学びの場を広げていました。

また、サークル活動では、他学科の友人や先輩とイベントを企画する過程で、異なる価値観を持つ人々と協働しながら、自分のやりたいことを形にする経験を積みました。これは現在の仕事にも生きていくと感じます。

一般教養課程で、心理学などの文系の授業を受けることができたことも、今の私の糧になっています。

在学生の皆さんも、自分の可能性を信じて、積極的にチャレンジしてください。

予想外の配属から社長へ 現場重視の経営を

広島大学を卒業して以来、ずっと保険ビジネスに携わってきました。伊藤忠商事に入社した当初、他部署を希望していた私にとって保険部は予想外の配属でしたが、次第にやりがいを感じるようになり、海外勤務を通じてキャリアを積みました。

伊藤忠商事は新たな成長分野として国内保険ショップ事業に注目し、2014年に「ほけんの窓口」への出資を実施。私は2017年に出向し、2022年に社長に就任しました。経営者として意識しているのは「社長然」としないこと。日本全

国の店舗を訪問し、社員と直接コミュニケーションを取ることを心掛けています。現場の声を大切に、社員と向き合いながら、会社の方向性を共に考えています。

対面コミュニケーションを軸に お客さまの人生に寄り添う

広島大学での学業の思い出といえば、ゼミで保険法を学んだこと。山下丈先生から教わった知識は今の仕事の基盤になっており、本当に感謝しています。もう一つは体育会スケート部門のアイスホッケー部に所属し、クラブ活動中心の生活でした。友人とのつながりは今も続いており、これが大学で

得た最も大きな財産だと感じています。広島大学には、地方国立大学としての強みを生かし、優秀な学生が集まる場であり続けてほしいと願っています。

社会が大きく変化の中で、私たちの仕事も新しい時代に適応することが求められます。AIやオンラインサービスなどの最新技術を取り入れながらも、お客さまとの対面コミュニケーションを軸として進化していきたいと考えています。「かかりつけ医」のように、人生のさまざまな場面で気軽に相談できる存在でありたい。そして、安心と安全の提供を通じて、お客さまの人生に寄り添う企業であり続けたいですね。

ほけんの窓口

広大のここがええね！

学生時代を過ごした東千田キャンパスの雰囲気が好きでした。広島市の街中にありながらも落ち着いた場所であり、学びやすい環境だったと思います。大学近くの自宅が友人の良き思い出です。

保険を通じて人と向き合い、つながる

その原点は広島大学にあります

法学部出身

猪俣 礼治さん

ほけんの窓口グループ株式会社
代表取締役社長

いのまた・れいじ／大分県出身。1988年広島大学法学部を卒業後、伊藤忠商事でロンドン、香港、ニューヨークと、海外赴任を経験。2017年「ほけんの窓口」に出向。2019年に転籍、副社長を経て、2022年4月に社長に就任。



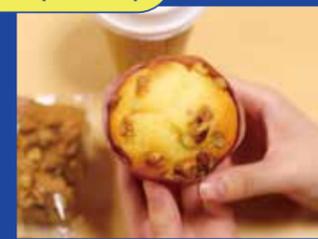
Focus on!



人から深掘るHU

勉強や課外活動などに励む広島大学の学生たち。
個性あふれるキャンパスライフを深掘りし、リアルな姿をお届けします。

パシャっと!
Campus snap



売店「プラザみどり」で販売している、おいしい手作りパンがお気に入りです。



平日は24時間利用できる霞図書館。勉強に集中できる環境が整っています。

奈良墨から科学のフロンティアへ!

れん あきのり
廉 明德さん

総合科学部総合科学科2年（取材時）



学生に献血の習慣を広めたい!

パシャっと!
Campus snap



受験の下見で訪れた総合博物館。科学に触れることで緊張がほぐれました。



研究室のメンバーとお花見に。四季折々の美しい景色を楽しめます。

広島大学献血推進サークル
Kasumi-Bloodonors部長
たいら 平良 あんりさん

医学部医学科3年（取材時）

きっかけは地元の伝統工芸! 未開拓の研究領域への挑戦

すすにかわ
煤と膠を混ぜて作る日本古来の伝統工芸品、奈良墨。高校時代の探究活動で「まだ世に知られていない発見をしたい」という思いから、科学的に未開拓であった奈良墨の研究を始めました。結果の一部は、在校中に短報として発表。それ以降も興味深いデータが得られたため、大学入学後もさらに研究を深める形で追加実験やデータの解析を行いました。

奈良墨の品質は、煤のよし悪しに大きく左右されます。そこで、煤の微細な構造や化学状態を分析し、炎の大きさが粒径に与える影響や、炎のどの部分で煤の形成が進むのかを明らかにしたのが私の研究です。この研究成果は職人の経験則を裏付けるものであり、さらに奈良墨の品質管理や製造工程の改善に役立つ可能性を秘めています。結果をまとめた論文は、炭素材料科学分野の国際誌 Carbon Trends に掲載されました。

地元の伝統工芸品から見出された興

味深い知見を論文として残せたのは、この上ない喜びです。現在は生命科学を学び、植物の研究に取り組んでいます。奈良墨の研究を通して知った科学の楽しさを忘れず、今後も自分にとっての「面白い」を追求することで、「科学のフロンティア開拓」に挑み続けたいです。



X線光電子分光法による煤の分析

DOI : <https://doi.org/10.1016/j.cartre.2024.100433>

学生が未来につなぐ 命のバトン

「Kasumi-Bloodonors」は、広島大学の学生の献血を推進するサークルです。霞キャンパスで年に2回実施する学内献血の運営をはじめ、SNSでの呼びかけや広島県赤十字血液センターの見学、商業施設などの献血イベントへの参加など、幅広く活動しています。メンバーは約50人。霞キャンパスに拠点がある医療系学部の学生はもちろん、東広島キャンパス

や東千田キャンパスの学生も所属しており、学部の垣根を超えた交流が広がっています。

私自身、もともと献血の経験はありませんでしたが、友人の誘いをきっかけに興味を持ち、サークルに入りました。輸血を受けた方々のお話を聞いたり、他県で同様に活動する学生と交流したりすることで、献血の大切さを改めて実感。より多くの方に献血の意義を伝えていきたいと思うようになりました。現在は部長として、メンバー一人一人がサークル



の一員であることを実感できるように、役割分担を工夫しながら活動を進めています。私たちの目標は、若い世代に献血の習慣を根付かせること。そのためにも、学内献血者数を増やし、広島大学全体で献血推進の輪を広げていきたいと思えます。

語学力を磨いて
海外就職を目指します！



教育学部第三類3年
あおき はなほ
青木 花歩さん

留学先 ▶ バスク大学(スペイン)
利用したプログラム ▶ USAC

Q1 | スペインに
留学した理由は？

USAC®プログラムを利用し、英語とスペイン語の両方を勉強したいと思ったからです。また、バスク語というバスク地方でしか使われない言語にも興味がありました。

Q2 | 留学で楽しかったことや
大変だったことは？

アメリカ人の友人とホームパーティをしたことが楽しかったです。一方、スラングや会話のスピードには慣れるまで時間がかかり、大変でした。

Q3 | 今後の目標を
教えてください。

留学経験を生かして、言語を手段として使い、いろいろな人とつながりたいです。海外で働いてみたいという気持ちもあり、外国語の勉強を続けていきます。

思い出の品

一緒に留学した
アメリカ人の友人が
作ってくれた折り鶴・
スペイン語の勉強に
使用した絵本



経験者に聞いた！

海外留学

レポート



海外留学を経験した学生
いる学生に、リアルな体

や、広島大学に留学して
験を語ってもらいました。

※ 所属、学年は全て取材当時のもの

平和の学びを深めて
広大をもっとピースフルに！



大学院人間社会科学研究所 博士課程前期2年
ブラジス ラウル
Vrajesh Rawalさん

出身国 ▶ インド

Q1 | 広島大学に
留学を決めた理由は？

平和学や国際関係に興味があり、広島大学を選びました。平和サークル「PeaCH」で、平和と音楽・スポーツ・テクノロジーをつなげる活動にも携わっています。

Q2 | カルチャーショックは
ありましたか？

通勤通学時にスーツを羽織っている人が多いことに驚きました。インドではシャツしか着ないことが多く、気候の違いを実感しました。

Q3 | 言語の壁を
乗り越えるためには？

日本人の友だちをたくさんつくり、会話する機会を多く持つようにしています。また、日本語能力試験1級を取るため、1日2〜3時間の勉強を続けています。

思い出の品

東広島市マスコット
キャラクター
「のん太」の
ぬいぐるみ



HIROSHIMA → WORLD

中国・日本・台湾
それぞれの大学で感じた違い！

大学院人間社会科学研究所 博士課程前期2年
オウ シンコウ
汪 振浩さん

留学先 ▶ 国立中央大学(台湾)
利用したプログラム ▶ HUSA



Q1 | 留学中に
楽しかったことは？

台湾は日本より人と人の距離感が近く、さまざまな学生と話せるのが楽しかったです。最初に広島に来たのも、とある映画に影響を受け、遠くの他者と心を通わせる姿に憧れたからです。

Q2 | カルチャーショックは
ありましたか？

日本に来る前は、母国である中国で3年間学生生活を送っていました。日本の大学で驚いたのは、紙の作業が多いこと。デジタルが苦手な人にとってはうれしい点ですね。

Q3 | 今後の目標を
教えてください。

多くの場所で培った相手を理解する力を生かして、グローバルな企業で活躍したいと思います。少しでも興味のある人は、留学にチャレンジすることをおすすめします！

思い出の品

留学先で
買ったお守り



取材担当広報ディレクター



法学部 3年
はやし れい
林 玲衣さん



総合科学部総合科学科 1年
ないとう すずか
内藤 涼花さん



総合科学部総合科学科 1年
みやのまえ なみ
宮ノ前 那海さん

広島大学の
留学プログラムの
詳細はこちら！



HIROSHIMA ← WORLD

文化や価値観の違いに触れ
大きく成長できました！

総合科学部国際共創学科2年
グエン ハ アン
Nguyen Ha Anさん

出身国 ▶ ベトナム

Q1 | 広島大学に留学した
理由は？

アニメが好きで、もともと日本に興味があったため留学を決めました。留学前には半年間にわたって日本の文化や言葉を勉強していました。

Q2 | 日本に来て
驚いたことは？

初めは「じゃけえ」などの広島の方言に驚きました。また、ベトナムと日本では道路の通行ルールが左右逆だったり、気温差が激しかったりと生活するうえで大変なこともありました。

Q3 | 留学で成長したと
感じる点は？

宗教によって食べられないものがあるなど、さまざまな国の人々と交流することで、自分の中の常識が覆され、多角的な視点から物事を見ることができるようになりました。

思い出の品

広島大学
公式グッズ
(ペン)



HUTOPICS

全12学部・5大学院から
注目トピックをピックアップ。
広島大学の最新情報を紹介します。

学部情報

大学院情報

大学の動き

若手外科医の年俵を1.3倍に 診療体制維持へ国立大学病院では初の取り組み

広島大学は、大学病院に勤務する外科医の診療体制を維持するため、2025年度から、若手の医科診療医の年俵を現行の約1.3倍とする待遇改善をしました。若手外科医に限った待遇改善は国立大学病院で初めてです。全国的に減少している消化器外科などの若手診療医が対象で、「未来の外科医療支援手当」として月額10万円、年額120万円を増額。対象者は27歳から40歳前後までの約30人です。

近年、全国的に外科医、特に消化器外科医の減少が、診療体制に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。広島県唯一の医療機関である広島大学病院は、今回の取り組みが他の病院や全国に波及し、外科医を目指す医師が増えてほしいと考えています。



記者会見で発表する越智学長

大学の動き

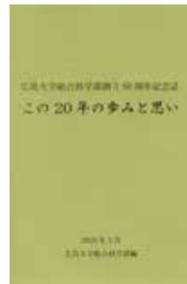
「未来創造人材教育機構」と「酪農エコシステム技術開発センター」を設置

従来の組織を改組し、4月1日に「未来創造人材教育機構」と「酪農エコシステム技術開発センター」を設置しました。「未来創造人材教育機構」では、学生の専門教育やキャリア支援など「個人に寄り添う高等教育モデル」を構築し、入学前から卒業までシームレスに学生を支援します。また、育成という観点を取り入れた高大接続プログラムの受講を課した上で、「育成型」入試を実施します。合格者には入学前教育を実施し、初年次教育へとつなぎます。育成型入試は令和9年度入試として教育学部で10人、生物生産学部で5人募集します。「酪農エコシステム技術開発センター」では、AIを活用して省力化技術を開発し、温室効果ガス削減や未利用資源の飼料化も検証します。世界人口の増加に伴い、食料自給率向上が求められている昨今、特に畜産・酪農分野での技術開発が重要です。本学は、酪農と家禽研究で国内トップクラスの施設を持ち、西日本で唯一の乳牛専用農場を有しています。また、ゲノム編集や生殖工学の技術で世界をリードしています。研究は産業界と共同で行い、国内だけでなく、アジアやアフリカにも技術移転を目指します。

総合科学部

総合科学部創立50周年記念誌「この20年の歩みと想い」を発行

単なる過去の記録だけでなく、総合科学部のこの20年を紡いできた執筆者の皆さまの思いも詰まった一冊です。



教育学部

森下弘氏に第33回ペスタロッcher教育賞を授与しました

1月30日、民衆教育の父と称えられるヨハン・ハイน์リヒ・ペスタロッcherの精神に通じた、優れた教育実践者(団体)を顕彰する「第33回ペスタロッcher教育賞」をNPO法人ワールド・フレンドシップ・センター名誉理事長の森下弘氏に授与しました。



経済学部+工学部

ネーミングライツ施設の開設記念式典を開催

2024年9月4日に、人文社会系で初めてとなるネーミングライツ施設の開設記念式典を開催しました。パラカ株式会社経済学部257講義室の命名権者に選ばれ、「パラカ講義室 257」となりました。3月7日には工学部講義棟B2「106講義室」のネーミングライツパートナーに名村造船所が選ばれ、工学部ネーミングライツ施設はこれで17件となりました。ネーミングライツによる支援は学生のために有効活用されます。



理学部

理学部建物を改修中

2024年度から開始したC棟改修工事は上層階が完了し、今年度は下層階を改修中です。新講義室も増設予定で、C棟完了後はB棟改修を予定しています。

文学部

源氏物語をテーマにリテラ「21世紀の人文科学」講座を開催

2024年12月7日、「『源氏物語』と紫式部、そして藤原道長」をテーマに、日本文学語学分野の小川陽子准教授と妹尾好信名誉教授が講演を行いました。雄弁な両講師により、会場は終始笑いや感嘆の声に包まれ、あっという間の3時間でした。



法学部

英語&中国語会話ルームを開設

2024年度に、英語・中国語を話す機会を増やすため、語学の堪能な留学生スタッフとの会話ルームを東千田キャンパスで初めて開室し、のべ75人ほどの方にご利用いただきました。2025年度の開設が決まりましたら掲示などでお知らせいたします。



医学部

医学部創立80周年記念事業を開催します

広島大学医学部は、1945年に広島県立医学専門学校として創設され、2025年に創立80周年を迎えます。教育・研究・診療を通じて地域に貢献してきた歩みを広く伝えるため、2025年6月15日にリーガロイヤルホテルにて記念講演会を開催いたします。また、特設Webサイトやパンフレットも制作する予定です。ぜひご覧ください。



歯学部

むし歯菌の表層タンパクが指定難病・IgA腎症の発症に影響

IgA腎症は指定難病の一つで、現時点では根本治療法が確立されていません。小児歯科学野村良太教授らの研究グループは、むし歯菌(ミュータンスレンサ球菌)が表面に出ている特定のタンパク質がIgA腎症発症に関与する可能性があることを発見しました。



薬学部

オンライン・バーチャル薬草園に園内散策(夏~秋)と薬草観察(4種)を追加しました

薬学部附属薬用植物園のHPでは、薬草園の見学や薬用植物の観察ができるバーチャル薬草園を公開しています。園内散策(夏~秋)では、園内を歩くように360°見渡して見学でき、薬草を見ながらそれぞれの性状や薬効の詳細を確認することができます。



生物生産学部

広島大学酪農技術セミナーを開催

酪農技術に関する最新情報を生産現場へ発信することを目的に2024年11月26日に開催されたセミナーでは、乳牛の栄養管理や牛舎環境などから考える暑熱対策の解説、温室効果ガス削減に関する研究紹介などが行われ、250人を超える酪農関係者の方にご参加いただきました。



情報科学部

国立大学初コーオプ教育「長期フィールドワーク成果報告会」を開催

大学に在籍しながら企業での有償職場体験を行う「コーオプ教育」の導入は国立大学では初めて。情報科学部ではコーオプ教育を講義科目「長期フィールドワーク」として実施しています。2月13日には、学生が自らの成長や気づきを語り、受け入れ企業から講評をいただく成果報告会を開催しました。



人間社会科学部

大佛次郎論壇賞(第24回)を受賞

大学院人間社会科学部(文学部)の藤原翔太准教授の著書『ブリュメール18日 革命家たちの恐怖と欲望』が、大佛次郎論壇賞(第24回)を受賞しました。1月30日に帝国ホテル東京で贈呈式が開催され、賞牌と副賞を授与されました。



先進理工系科学研究科

広島大学・高専連携大学院進学制度を進めています

高等専門学校教員と行う共同研究に参画する優秀な高専専攻科生に、博士課程前期推薦入試の受験資格を与える「広島大学・高専連携大学院進学制度」を2022年度から展開しています。今年度初めて呉高専の専攻科生3人が当該制度を利用して入学しました。今年度は呉高専と新居浜高専の専攻科生が当該制度を利用し受験する予定です。

総合生命科学部

総合生命科学部シンポジウム2024を開催

2024年11月に学学生会館レセプションホールにて2024年度に着任した教員が研究紹介を行いました。また、併せて研究発表会(ポスター発表会)を開催し、研究交流の場となりました。講演はオンデマンド配信ですので、ぜひご視聴ください。



医系科学研究科

久保達彦教授が統括のJICA調査団がバヌアツ地震(12/17発生)被災地で支援を行いました

緊急医療支援や国際的な活動調整に経験豊富な調査団員は、WHOなどと連携し現地で災害医療情報マネジメントに関する支援を行いました。久保教授は、国際緊急援助・災害医療が専門で、これまでさまざまな地域で国際緊急援助活動に参加しています。



スマートソサイエティ実践科学部

SmaSo-X Challenge事業 Graduate Student研究助成を決定

研究分野の垣根を超えた「超学際実践研究(クロスオーバー研究)」に挑戦する大学院生を公募し、10人の在籍学生に研究助成金を贈呈しました。本研究科は「SmaSo-X(スマソクロス)」をキャッチフレーズに、教員や学生の超学際的な連携を引き続き支援していきます。



部活動・サークル紹介

広大生のアクティブライフ!

スマホだけでも入部OK!
兼部・兼サーも大歓迎!

“写真部”



写真が好き、写真を通して交流したい
そんな人が集うサークル

撮るものもカメラも十人十色。でも写真を通じて人や世界と出会いたい気持ちは同じ。そんな仲間が集まり、自由に活動しています。学年・経験不問、カメラなしでもOK! 一生楽しめる趣味と最高の仲間を写真部で見つけませんか?

部員数 活動日
33人 火
(月1回日帰りの小旅行も)



合宿など
楽しいイベントも
盛りだくさん!

“Jack-o'-Lantern”

マジック&ジャグリングサークル

普段は楽しく、イベントごとは真剣に
素晴らしい仲間に出会えるサークル

多くのメンバーが大学から始めました。先輩が優しく教えてくれるので初心者はもちろん、経験者も大歓迎! 学祭のショーは一生の思い出に。大歓声を浴びたい、新しい特技を身に付けたいなど、動機はさまざま。少しでも興味がある方はぜひ見学へ!



部員数 活動日
21人 月・水・金



部員数 活動日
14人 火・水・木・土・日
馬術部観舎(南グラウンド隣)で活動



春季中国四国地区学生馬術大会 総合優勝16連覇
夏季中国四国学生馬術大会 総合優勝14連覇

“馬術部”

馬には乗ってみよ、人には添ってみよ

国立大学No.1を目指し日々活動中! 夏は5時、冬は7時から早朝練習を行い、練習以外では掃除や馬の手入れも。部員同士はほぼ毎日一緒に過ごし、仲良く和気あいあいとしています。全員が初心者ですが、毎年全国大会に出場しています。新しい挑戦や馬に興味がある方、大歓迎です!



女子学生部
女子学生部
女子学生部

Campus Gallery

HU photos

Instagramで#広島大学の付いた投稿からお届けします。



投稿者 サイさん
#広島大学 #霞キャンパス

ひろティー活動記録

3月23日



令和6年度広島大学学位記授与式(卒業式)に駆け付けたよ! 晴れ姿の卒業生、とっても素敵! いつも応援してるからね! ご卒業・ご修了おめでとう!

広島大学にまつわる写真を#広島大学を付けてInstagramに投稿してください。テーマは何でもOK! 素敵な写真をお待ちしています。

投稿募集中!



投稿が掲載された方には
ボールチェーン付
ひろティーぬいぐるみ
(サイズ約15cm)をプレゼント!

WEBアンケートにご協力ください

読者の皆さまからのご意見、ご要望、情報提供をお待ちしております。
いただいたアンケート内容は、今後の誌面づくりに活用させていただきます。



WEBアンケートはこちら

HU-plus 検索

読者プレゼント

アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で合計6名様にプレゼント!

※応募締切:2025年7月31日必着 厳正な抽選の上、商品の発送をもって当選の発表にかえさせていただきます。

- A 末光 陽子氏
SUEP.建築作品集
『SUEP. 10 Stories of Architecture on Earth』
末光弘和+末光陽子/
SUEP著
(TOTO出版) **1名様**
- B 対談集
『22世紀の教養論
VUCAの時代を
生きる君たちへ』
越智光夫
(広島大学長)編著
(中央公論新社) **1名様**
- C 漫画
『ヒロ子さんと巡る広島大学』
弘兼憲史・ヒロカネ
プロダクション作画
(広島大学出版会) **3名様**
- D HUオリジナルグッズ
「ドライTシャツ」
Lサイズ **1名様**

東広島市のふるさと納税返礼品に広大グッズが登場!
HUドライTシャツ、東広島キャンパス内で伐採されたアカマツ古木を使用した万年筆の2種類です。



糖類を控えた
優しい甘さの
もみじ饅頭です

【広島大学産学連携商品】
◎広島新米 もみじ饅頭Light
糖類50%オフ
6個入/10個入

にしき堂

OTAFUKU

和やかなひと時の
そばに。

毎月10日はお好み焼の日

Balcom Group

BMW, MINI, RRR, TRIUMPH, CLIFFORD

広大さんぽ



写真撮影: 広島大学生物生産学部 4年 有村拓真

広大な敷地を誇る広島大学では、各地でさまざまな生き物が見られます。中でも絶滅危惧動植物が100種以上生育している東広島キャンパスは、2024年にその一部が環境省の自然共生サイトに認定されました。キャンパスを散策すると珍しい生き物に出会えるかもしれませんよ。

① トノサマガエル

環境省レッドデータブックなどで準絶滅危惧(N-T)に選定。東広島キャンパス内の水田では5月頃産卵する。産卵期にはオスの低い鳴き声が聞け、産卵から1週間ほどでふ化する。

② グンバイトンボ

環境省レッドデータブックなどで準絶滅危惧(N-T)に選定。東広島キャンパス内の溪流沿いで観察できる。オスの脚は軍配ぐんぱいのような形をしている。

③ キボシチビコツブゲンゴロウ

環境省レッドデータブックなどで絶滅危惧I-B類(E-N)に選定。東広島キャンパス内の水辺で見られる水生昆虫。全国的に希少で美しい微小ゲンゴロウである。



広島大学75年史 通史編

創立75周年を記念し、前身校以来の記録をまとめた「広島大学75年史 通史編」を発行しました。ぜひご覧ください!



100年後にも世界で光り輝く大学へ

広島大学

編集・発行：広島大学 広報室

〒739-8511 東広島市鏡山1-3-2 TEL:082-424-4383 FAX:082-424-6040

E-mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp

https://www.hiroshima-u.ac.jp

